

がくどうほいくふなばし

No. 12 市連協だより
船橋市学童保育連絡協議会
(Tel/Fax) 047-433-9266

2002.5.24(金)発行
(住所) 船橋市西船2-2-21
(ホームページ) homepage2.nifty.com/fghrk/

障害児学級に通うてっくんは、絵を描くのが大好き。ルームでは1日に2,30枚も描くときもあります。ものすごいスピードで描かれても、総武線、京浜東北線など各路線の特徴がしっかりと捉えられていてすごい。

てっくんが入所してまもなく、彼のことをまだよく理解していない頃、絵を描いている最中の彼に、早くおやつ準備をするよう急かしたことがありました。そばで見ていた一年生のあゆむちゃん



障害を持つ子ども
みんなのなかま

ほのぼの 保育報告

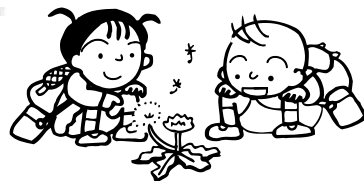
「てっくんはこの絵が描きたいんだよ。この絵を描き終わったらおやつの用意をするよ」と。

果たして、てっくんは絵を描き終わるとさっさと道具を片づけ始めたのでした。「子どもに学ぶ」というのはまさにこういうことだと実感したものです。

てっくんの絵を壁に張り出したところ、彼もすっかり気に入って、ルームの壁はおろか天井まで電車の絵で埋め尽くされるようになりました。ごろっと横になって自分の絵を見つめるてっくん。

それはてっくんだけでなく、みんなの意識の中にしっかりと根付くきっかけになったと思います。

学童保育はてっくんの美術館でもあったのです。(文中仮名)



ちば保育のつどい

とき 7月6日(土)
学童関係の分科会

ところ 船橋市中央公民館

シンポジウム「これからの保育・学童保育はどうなるの？」
分科会1「幼児期から学童期への育ちを見通して」

詳しくは、「つどい」の案内を見てください

じっくりと聞けた指導員さんのお話 ～学童連協「はるのつどい」～

5月19日に船橋市中央公民館で、「聞きたい、見たい、語りたい、わが子が過ごす学童保育」をテーマに、はじめて「はるのつどい」を行いました。

はじめに、「受けとめています ただいまあの声」と題して放課後ルームの指導員さんからルームでの子どもたちの様子が、エピソードを交えていきいきと報告されました。

保護者との話し合いが大事

その中で、放課後ルームは、そもそも親の就労を保障するために子どもが通うところであり、保育園と違って自分の足で通うところなので、子どもの中に通う意識を育てないと成り立たない、そのことから指導員の働きかけが大事であり、また、保護者との話し合いがとても大事

であることが話されました。

参加者から、「子どもとの関わりをじっくり聞けてとてもよかった。」「困難な子どもを抱えている中で、さすがだなと思った。」「こんな話が、保護者会で聞けるといい」などの感想が寄せられました。

子どもの話を聞くことは楽しい

今回の「はるのつどい」は、市連協が行ったアンケート結果を踏まえ、放課後ルームでの子どもの様子、喜びや悩みを語る機会にしたいということで企画しました。土曜日が雨で当日運動会となった学校もあり、参加者は、11ルーム、17名と少なかったことは残念でしたが、子どもの話を聞くことは楽しいことだということをあらためて考えさせられた集いとなりました。

入所問題をきっかけに父母会をつくります <宮本小ルーム父母>

宮本小放課後ルームは、今年度定員オーバーで、10名の待機児（1年～3年9名、4年1名）が出てしまいました。入所できなかった児童の親たちはもちろん、今年は大丈夫でも来年は...、と不安を募らせるこの事態に、放課後ルームの親たちみんなの問題として考える必要があるのではと、父母会を作ろうという動きが始まりました。5月26日に父母会の設立総会を開くことになっています。

（3～5月の詳しい経過は次号でお知らせします）

5月17日に八栄小父母が、19世帯分の要望書を市に提出

八栄小父母はこの間、市連協とともに市と懇談したり、独自に福祉局長と懇談してきました。再度父母間で相談して、「八栄放課後ルームを実態に即して、施設を拡充し、適正規模にさせていただけますよう、早急な対応をお願いいたします」という趣旨の要望書を市長あてに提出しました。また父母会設立の準備を進めています。

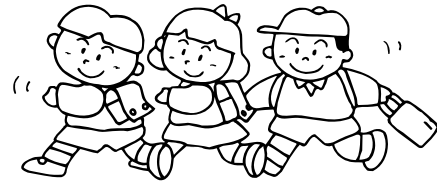
「学童保育入所拒否と受諾を通じて」 黒木 もも代

この2ヶ月間ほど子どもが成長したと思った日々もなかったと思います。突然の入所拒否の連絡、それに続く、「鍵の開け方」の練習から始まったお留守番の日々。わずか7歳の子どもにとって、誰もいない家に帰ることはさびしかったに違いありません。改めて学童保育がどれだけ重要な存在なのかを再認識した2ヶ月でした。

市連協の存在がなかったら入所拒否にただ泣き寝入りしていたかもしれません。励ましていただいて市役所へも数度通い、市長あてに手紙も書きました。私以外のお母様たちも同じように必死に我が子の入所に向けて運動をしていることを知り、とても力づけられました。「子育ては1人ではできない」と改めて思った次第です。

努力が実って2ヶ月ぶりに再入所した我が子を見て、学童保育の先生は、「2年生になったかもしれないけど、とっても成長しましたね」とおっしゃってくれました。泣きながらお留守番をした日々は、もしかしたら無駄ではなかったのかもしれない。

でも「やっぱり放課後ルームは楽しいよ」と言う子どもの言葉にうそはないと思います。希望者全員が学童保育に入所できてお母さんは安心して働ける、そんな当たり前なことも、働くお母さんたちの力1つ1つの積み重ねの結果なのだということを、学んだわたしでした。



ルームの定員を超えると4年生は全く入所できない

法典放課後ルームでは、6人が不許可にされました。現在問題になっているのは、4年生以上が入所できないことです（3年生以下でルームの定員を超えるため）。父母の間で出されている声を紹介します。

4年生になったが、少なくとも夏休みまでルームに入れたかった。特に夏休みは1人である時間も多いので、せめて夏休み期間中だけでもルームに通えとありがたい

定員100%を超えたルームでは、4年生以上は夏休み枠での入所さえ出来ないと聞いた。近隣のルームにも通えないという。せめて夏休み期間だけは近隣

のルームで受け入れてほしい。そうでないと安心して働けない。

4年生の子がルームに入れなかったため、下の子（2年生）がルームに行く日数がかかり減った。今までいっしょだったので、ルームから1人で帰ることが不安なようだ。4年生以上だと一律に切り捨てるのはあまりに冷たい。夏休みが心配だ。

4月の市連協
定例会の内容

4月26日に保育センターで行われ、入所問題をめぐる市との懇談内容や各父母会の活動の交流が行われました。

3月にお別れ会

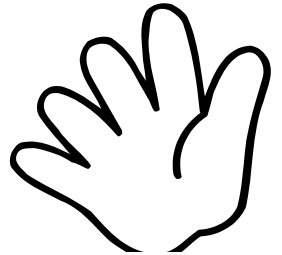
<三山放課後ルーム父母会>

父母会 の動き

3月16日に三山市民センターで、82人が参加し、三山放課後ルーム父母会のお別れ会が開催されました。

当日は会食しながら、お別れする子へ、一番の思い出や好きな遊びやおやつなどをインタビューしたり、じゃんけんゲームをしたり、大いに盛り上がりました。お別れする4年生の父母から思い出も語られずばらしい会でした。

今回の取り組みについて参加者からは、「多くの人に参加いただいでよかった。初めて参加する方もいて和やかにすごすことが出来た」という感想が寄せられました。



行田東小ルームが4月に開設、今後改善を要望

行田東小ルームが、4月1日から開設されました。定員70名の施設で、56名でスタートしました。今まで、行田西・塚田・西海神のルームに通っていた上級生と新入生21名の構成です。

父母会では、「大規模ルームなので、経験者の配置と事故対策要員の配置」を要望してきましたが、経験者1名の配置に止まりました。また、グラウンドに面しているにも

かわらず、ネットなどがいないため、ボールが窓ガラスを直撃する恐れがあります。（既に、網戸はほつれています。）

今後も、施設の改善と保育内容の充実を要望していく予定です。

父母会行事予定

6月8日 デイキャンプ

<いちかわ市民キャンプ場>

2002 年度

市連協定期総会に 参加しましょう

とき 6月30日(日)午後1時~

ところ 船橋市中央公民館

1年間の活動を振り返り、来年度の活動方針を話し合う場です。また父母会の活動を交流し、ルームでの子どもたちの様子も見えるような場にしたいと思いますので、ぜひ参加下さい。

